

京都府の地震活動

令和4年（2022年）2月

第 35 巻 第 2 号

京都地方気象台

目 次

震央分布図、概況	・・・ 1
震央分布図、断面図	・・・ 2
【地震一口メモ】 3. 1. 1 東北地方太平洋沖地震を経験して	・・・ 3

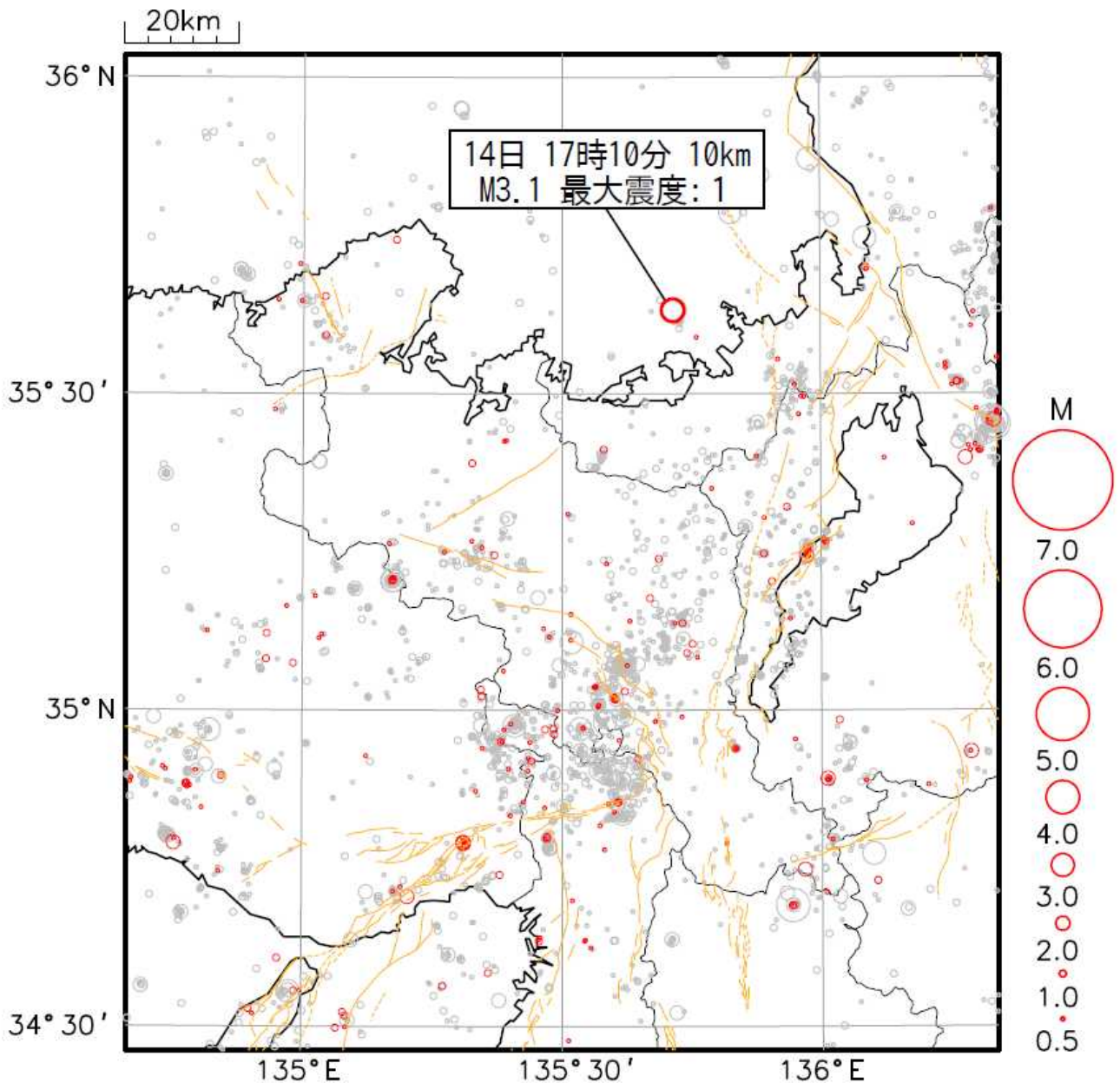
『京都府の地震活動』は、京都府及びその周辺の地震活動状況を解説するとともに、地震防災知識の普及に資するため、毎月刊行しています。

本誌に掲載した震源要素、震度データは、再調査された後、修正されることがあります。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

震央分布図（マグニチュード 0.5 以上、深さ 0～80km）



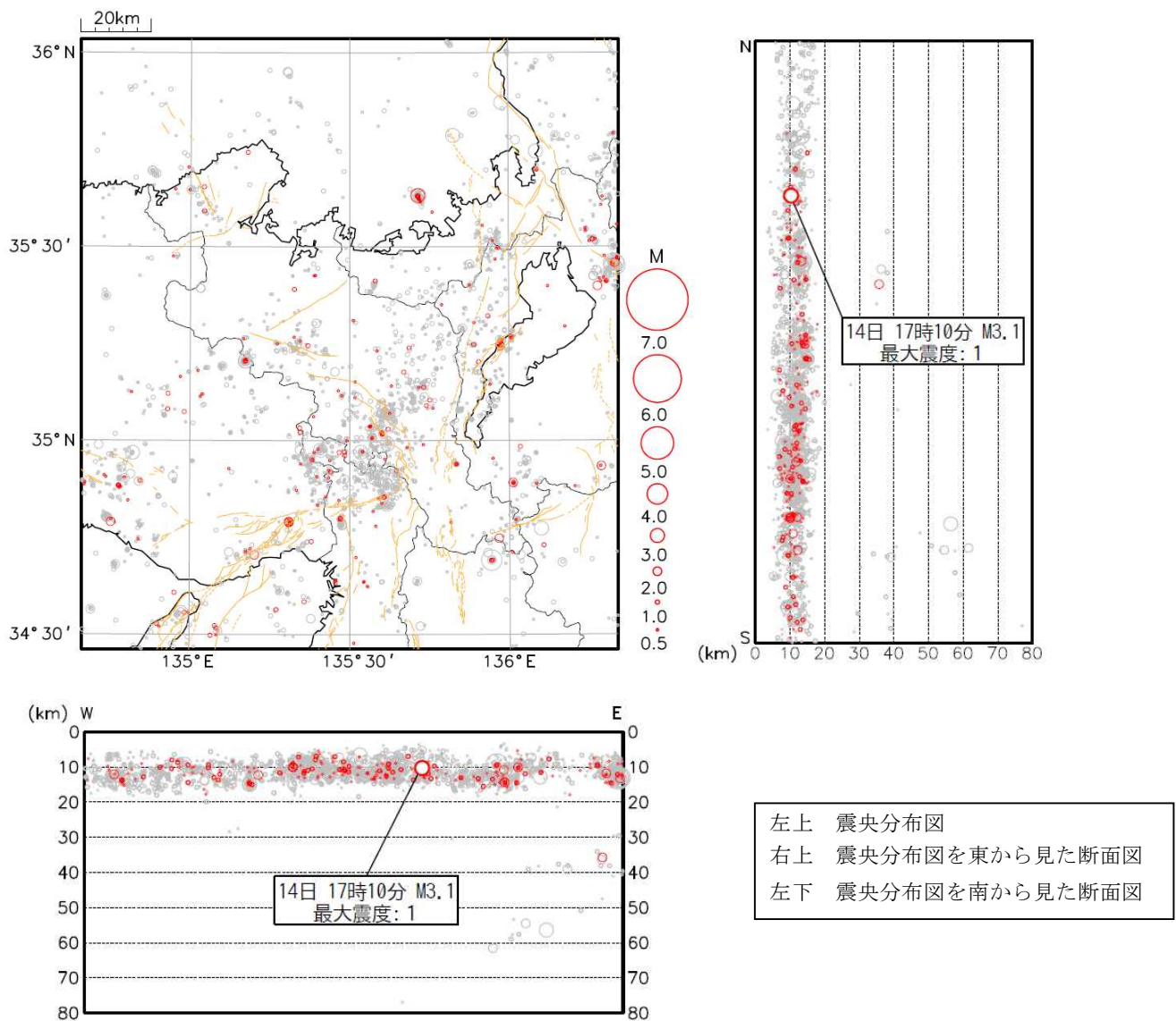
- ・（2021年3月1日～2022年2月28日、深さ 0～80km、 $M \geq 0.5$ ）
- ・2022年2月の地震を赤く表示（総数238）
- ・震源を表す「○」の記号は、マグニチュード（M）の大きさに対応したサイズで表記。
- ・震度 1 以上を観測した地震には、日時、深さ、マグニチュード（M）、最大震度及び京都府内で震度を観測した地震については京都府内最大震度を付記。
- ・主要な活断層を橙色で表示

概況

2 月中、震央分布図内で観測したマグニチュード 2.0 以上の地震は 12 回、震度 1 以上の揺れを観測した地震は 1 回でした（1 月はそれぞれ 15 回、5 回）。

2 月中、京都府内で有感地震はありませんでした。

震央分布図、断面図（マグニチュード 0.5 以上、深さ 0～80km）



- ・（2021年3月1日～2022年2月28日、深さ 0～80km、 $M \geq 0.5$ ）
- ・2022年2月の地震を赤く表示（総数238）
- ・震源を表す「○」の記号は、マグニチュード（M）の大きさに対応したサイズで表記。
- ・震度 1 以上を観測した地震には、日時、マグニチュード（M）、最大震度を付記。
- ・主要な活断層を橙色で表示

深さ数 km～約 20km に分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震（地殻内地震）、深さ約 30km～約 60km に分布している地震は、沈み込むフィリピン海プレート内の地震です。

【地震一口メモ】

3. 1 1 東北地方太平洋沖地震を経験して

平成 23 年（2011 年）3 月 11 日 14 時 46 分に発生した東北地方太平洋沖地震から今年で 12 年目を迎えます。想定外の規模の地震が発生したことにより、多くの人命や財産等が失われました。この経験から、国や地方公共団体などでは、様々な調査や検討が行われ、気象庁では津波注警報の改善等を実施しました。この地震によって気象庁から発表した情報や調査報告書等は、気象庁ホームページにまとめられています。なお、東北地方太平洋沖地震により、京都府内では最大震度 3 を観測しましたが、大きな被害は確認されていません（総務省消防庁による）。



東北地方太平洋沖地震の被害の様子（気象庁 HP から）

今後、マグニチュード 8～9 クラスの地震が発生する可能性が高いと予想されている南海トラフ地震について、地震調査委員会は、毎年 1 月 1 日を基準日として計算している発生確率に対して、昨年から引き続き未発生で 1 年経過したことから今後 40 年以内の確率を 80～90% から 90% 程度に上がったと公表しました。このことから切迫度は高まっていると言えますが、地震はいつでもどこでも発生する可能性はあり、さらに東北地方太平洋沖地震を経験して、私たちは「想定にとらわれない」準備、防災対策が必要と学びました。それら「想定外」を避けるため、新たに設けられた情報の一つに「南海トラフ地震臨時情報」がありますが、地震発生前に必ず情報が発表されるとは限りません。また、京都府の地震活動 2021 年 9 月号でも紹介した通り、南海トラフ地震が発生した場合、京都府の一部市町では、最大震度 6 強になることが予想されています。このため、私たちは様々な可能性を考え、準備、防災対策を行う必要がありますが、まずは身近な簡単なことから始めることができます。京都府のホームページには、在宅時における被害例やその対策方法などが分かりやすく記載されていますので、皆さまのご家族、皆さま自身の命を守るためにも、非常に参考になると思います。

気象庁 HP「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震 ～The 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake～」

https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/2011_03_11_tohoku/index.html

気象庁 HP「東日本大震災 ～東北地方太平洋沖地震～ 関連ポータルサイト」

<https://www.jma.go.jp/jma/menu/jishin-portal.html>

地震調査研究推進本部地震調査委員会 HP「長期評価による地震発生確率値の更新について」

https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/chousa_22jan_kakuritsu_index/

気象庁 HP「南海トラフ地震に関連する情報の種類と発表条件」

https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/nteq/info_criterion.html

京都府 HP「特集 1 新しい防災の心得 在宅時間が長い今こそ 防災を家から始めよう」

https://www.pref.kyoto.jp/koho/dayori/202109/toku_01.html

※HP（ホームページ）